

●2018年度の来札観光客数の状況について

札幌市では、このほど2018年度(2018年4月～2019年3月)の来札観光客数の状況調査結果をまとめましたので、お知らせします。

1 調査結果概要(詳細別紙)

(1) 来札観光客数

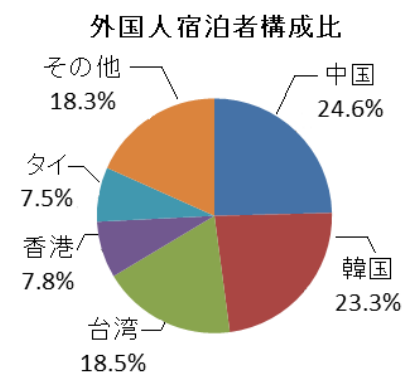
2018年度に札幌を訪れた観光客は、過去最多の約 **1584万6千人**で、前年度の約 **1527万1千人**と比較すると約 **57万5千人(前年度比3.8%)**の増加。

(2) 外国人宿泊者数

外国人宿泊者数は過去最多の約 **271万9千人**で、前年度の約 **257万2千人**と比較すると約 **14万7千人(前年度比5.7%)**の増加。

【国・地域別の外国人宿泊者数】

順位	国・地域	宿泊者数	対前年度比	前年度順位
1位	中国	670,175人	8.2%増	1位
2位	韓国	634,537人	11.0%増	2位
3位	台湾	501,653人	6.7%減	3位
4位	香港	211,076人	14.3%減	4位
5位	タイ	202,772人	49.0%増	5位



※上位5つの国・地域で全体の81.7%を占め、外国人宿泊者総数の92.1%をアジアで占めるという結果となった。

2 分析・要因

(1) 来札観光客数

- ・平成30年北海道胆振東部地震の影響による宿泊キャンセルや観光需要の減少により、9月の来札観光客数が前年同月比で約23万3千人(13.9%)の減少となったが、11月以降は前年同月比で増加に転じ、前年度を3.8%上回る結果となった。
- ・10月に「北海道ふっこう割」の旅行商品の販売を開始したほか、東アジアや東南アジアで行った市長・副市長によるトップセールスなど、観光需要の早期回復に向けた取り組みの効果が表れたもの。

(2) 外国人宿泊者数

- ・平成30年北海道胆振東部地震の影響を受け、前年度比で台湾が6.7%減、香港が14.3%減となったが、中国・韓国・タイにおいては、前年度比で増となり、全体としては、前年度を5.7%上回る結果となった。特にタイからの宿泊者数が前年度比で約5割増加し、全体的な外国人宿泊者数を押し上げた。
- ・タイのバンコクや韓国の釜山、ソウルなどと新千歳空港を結ぶ新たな航空会社が参入するなど、国際線の便数が順調に増加したことが考えられる。
- ・札幌市が継続的にアジア諸国で行ってきた旅行博や商談会での魅力発信や、SNSを活用した情報発信など観光客の誘致に係る取り組みの効果が表れたもの。

3 2019年度の観光客誘致に向けた主な取り組み

(1) 観光客誘致・受け入れの推進

- ① 「日本新三大夜景都市」に認定された夜景を活用した国内向けプロモーション
- ② アジア各国からのインフルエンサー招請を中心としたプロモーション
- ③ 「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」と連動したイギリス・オーストラリア向けの観光プロモーション
- ④ フィンランド・ヘルシンキなど海外直行便就航都市へのプロモーションの実施
- ⑤ 国や北海道などと連携したアドベンチャーツーリズム※の推進
※「アクティビティ」「自然」「異文化体験」の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行
- ⑥ 市内決済事業者に対するキャッシュレス決済環境整備の支援
- ⑦ 市内宿泊施設に対する外国人富裕層受け入れ環境整備の支援
- ⑧ 非常用電源を備えたデジタルサイネージによる総合案内板を設置
- ⑨ 都心と郊外の魅力的なスポットを結ぶ市内周遊バス「さっぽろスマイルバス」の運行

(2) MICE 誘致の推進

- ① 民間企業・他市町村等との連携による海外における共同プロモーション
- ② 欧州やアジアのMICE見本市への出展、主催者への国際会議やインセンティブツアー※のセールス
※優秀な社員や販売店を対象に企業が報奨として行う旅行

問い合わせ先

経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課 和田、村上
電話：211-2376 ファクス：218-5129